



4月9日

富陽小学校入学式での  
栗市長

ごあいさつ

平成30年5月8日

新緑の5月を迎えました。いきいきとした若葉の芽吹きに季節の移り変わりを感じます。

そのなか、厚生労働省が全国約1,900の市区町村別の平均寿命を発表し、本市の女性が88.6歳と、全国第5位となったとのニュースがはいつてきました。大きく報道もされ、率直なところ大変うれしく思っています。要因はいろいろとあると思います。がん検診の受診率が高いことや、市内に医療福祉施設が充実していることもあります。何よりも影響が大きいのは市民の皆さんの健康に対する意識の高さではないかと思えます。

昨年の5月、市の老人クラブ連合会が「スタンドアップ301運動」の宣言をされました。座りっぱなしをやめて30分に1回は立ち上がる、というものです。高齢の方だけでなく、仕事をされている方、家事にたずさわる方も同じ姿勢を長時間続けるといのは、あまり良いことではありません。市役所の会合のなかでも、すべてに取り入れることは難しいですが、ちょっとしたタイミングをみながら進めていきたいと思っております。ご家庭でテレビをご覧になりながらも心がけていただく、その実践が大切だと思います。

何をすることも健康がいちばんです。今年も「寿大学」の開校式に出席いたしました。何かに興味を持つ、知りたいという気持ちで行動することも、元気で生活できることにつながるような気がします。

現在、中央地区整備事業の「地域中心交流拠点施設」を整備しています。中央公民館の建て替えにとどまらず、市民活動センターや商業施設の機能を持たせ、かつての本町通りのにぎわいも取り戻すことを考えております。

「かつての本町通りのにぎわい」とは、どんなにぎわいですかと、直球のご質問をいただきました。私自身でいうと、子どものころの本町の風景が「かつてのにぎわい」になります。豆腐屋さんがあり、肉屋さん、電気屋さん、魚さんが軒を並べていました。本屋さんに洋品店、呉服屋さん、何かの用事があってこの通りを行き交う人々の気配があり、互いに話す声が聞こえ、そこには生活が息づいていました。それが50年ほど前の本町通り旧北国街道であり、自分もそのなかで生活していた思い出がよみがえってきます。その後、郊外にスーパーマーケットができ、店舗の形体も時代とともに変わり、さらに市街化が拡大していきました。

昔のにぎわいを取り戻す、ということは単に復元させるというイメージではありません。それには今の時代に応じたにぎわいというのはどうあるべきか、ということを考えなければなりません。市民の皆さんが活躍できる舞台、その整備のなかでこれまでの歴史を踏まえ、これからの時代を見据えた場所にしていきたいと考えております。残しておかなければならない伝統はしっかりと守り、本町通りでしかできないようなステージ創りをめざしていきたいと思えます。それが「野々市版コミュニティ・リビング」です。

そもそも、じっくりと執務室に座り続けていることより動き回っているほうが自分らしいので、30分に1回は立ち上がる「スタンドアップ301運動」は願ってもないことです。時間が許す限り、庁舎内では多くの職員とコミュニケーションをとりながら情報交換を行い、次の「何か」に活かしていきたいと思っております。